

企業名： ユー・エス・エス

レポート名： 統合報告書 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

私はユー・エス・エスの統合報告書を読み、ユー・エス・エスが目指す会社の将来像とは、公平・公正の原則を基盤として会員やバイヤーとの信頼関係を強固なものにし、オークション事業を拡大させていくことだと考えた。なぜなら、最高経営責任者の安藤さんのコメントや企業理念、社会性活動の説明などで頻繁に公平、公正という言葉が使われており、様々な活動においてこの会社が公平、公正の理念を重要視している事が読み取れるからだ。

安藤さんのコメントからはそうした信頼関係がオークション事業の拡大に寄与すると考えていることが分かり、7.8 ページの出品台数の推移を示しているグラフからは実際に事業が堅調に推移している事が分かる。

また、ユー・エス・エスはオークション業界のリーディングカンパニーとして新しい技術や事業を積極的に導入し、会社として常に進化しようとしていることも読み取ることが出来る。なぜなら、2020 年の出品台数シェアが 40%で安定的な地位にいるのにも関わらず、将来を見据えて電気自動車の検査体制を充実させたり、下回り画像システム、業界初の車載式故障診断装置を導入したりするなど、常に業界の最先端をいこうとしていることが感じられるからだ。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

私が統合報告書から読み取ったユー・エス・エスの競争優位性は主に 4 つある。オークション会場数と会員数、ビジネスモデルと出品台数である。これら 4 つの項目をオートオークション業界の競争他社であるアライオートオークション、CAA、TOYOTAUSEC と比較し、その競争優位性を示していく。

	会場数	会員数	出品台数
USS	19 会場	82793 社	2661084 台
アライオートオークション	5 会場	35000 社	38400 台
CAA	8 会場	36000 社	390383 台
TOYOTA USEC	13 会場	×	917899 台

上の表は4社の会場数、会員数、出品台数を示したものであるが、いずれの項目においてもUSSが最も高い数値であることがわかり、競争優位性を保っているといえる。また、リサイクルを行うというビジネスモデルも競争優位性の1つであると考えられる。中古車の買取販売などはTOYOTAUSECも行ったりしているがリサイクル事業を行っているのはUSSのみであり、このリサイクル事業によって機械・設備の再生利用や廃棄物発生を抑制を促進し、循環型社会の実現に向けた取り組みを積極的に行っていることがうかがえる。この結果、環境配慮への高い意識を持つ顧客を引き付けられているのではないかと考えられる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

ユー・エス・エスの掲げる公平・公正なオークション運営が、業界初となる車載式故障診断装置やイスラエルUVeye社の車両検査システムの導入などによりさらに強固なものとなれば、今までの顧客との信頼関係がより確かなものになるとともに、新たな会員や利用者数の獲得につながると考えられる。そして、そのような新規顧客の獲得によって事業が拡大し、会場数の増加や出品台数の増加につながるなど、統合報告書に述べられているような好循環が今後も続いていくのではないかと考えることができる。

また、ビジネスモデルについては、最近ESGやSDGs、脱炭素化の動きが強まっていることなどから、これから先環境への配慮の意識が高い消費者が増えていくことが予想される。そうした動きの中で、ユー・エス・エス社のリサイクル事業はさらなる顧客獲得に貢献できる可能性が十分にある事業だといえることができ、熱硬化性樹脂を用いて製造される省エネ資材などの他社がまねできない独自の技術によって競合他社からの差別化を図ることで、他社が新たにリサイクル事業を始めても競争優位性を保つことができるのではないかと考えられる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

私はユー・エス・エスで自身の人的資本の価値向上を達成することができると感じた。その理由はユー・エス・エスが社員の積極性を重視しているとともに、社内での教育や研修制度が充実しているからである。例えば、新入社員研修や管理職向け研修、高い検査精度を実現するための車両検査員の教育・育成などがあげられる。こうした研修制度によって、新入社員は業界知識や業務知識を効率的に身に付けることができる一方で、管理職につけばオートオークションの運営に関する考え方などの新しい知識を学んでいくことができる環境が整っている。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

報告書の中の説明で抽象的な部分が多くあったのでそういったところをより具体的

に述べることで説明のわかりやすさや説得力につながると感じた。例えば、オートオークションにおける不正取引の防止に対する取り組みの説明で、独自の監視システムを通じて適正に取引がなされているかを厳重に管理していると述べられていたが、監視システムの内容には触れられていなかった。セキュリティの問題で公にできないのかもしれないが、実際にどのような監視体制がなされているのかを述べることでより説明の説得力が増すのではないかと考えた。

また、報告書では出品台数や会員数の多さが強調されていたが、ここで業界の平均的な数値などの比較対象があるとより分かりやすい説明になるのではないかと感じた。